

9月県議会

一般質問をしました

【原子力について】
 (1)官僚として長く国の政策にかかわってこられた知事の方から見て、これまでの国の原子力行政をどう思っておられるのか。そして、これから原子力の進むべき道はどうか。知事の所見を伺いたい。

《知事》

エネルギー行政・電力行政は私鉄行政と同じく国に権限が集中しており、会社は国にばかり目を向け、神経を集中して利用や地域、更には外国の事項・事例や技術の進歩にはあまり目を向けて来なかった傾向があるのではないかと考えます。事故が技術的な進歩を促す要因になるのが世界の常です。これからのことが「原子力むら」が発生する原因にもなつたように思います。電力会社や原子力関係者は利用者や地域にもっと目を向け、原子力の安全性と原子力の将来にもっと関心をもち、我が国における原子力利用の将来について前向きな関心と信頼感を広く国民の間で持つてもらうべきです。

また、原子力の安全性については、特に原発の安全性やリスクについて多くの情報・知見を有し、エネルギー政策を中心として行っている国が、中央政府が、正確で客観的な情報を国民に分かりやすく、きちんとした根拠として提供・公開を行った上で、国民的な議論が展開される環境を整えるべきだと思います。討論型の議論、決定、コンセンサスが最も求められるケースのような思いがあります。これからの原子力の進むべき道については、エネルギー政策は国が中心となつて行っているだけ、原発への依存度はできるだけ下げる方向で努力すべきと考えます。その上で、「脱原発」をどのレベルまで追求すべきか、追求できるのかという点については、引き続き慎重な議論を必要とする観点であると考えます。

のりかという点については、引き続き慎重な議論を必要とする観点であると考えます。

(2) 我が国に原子爆弾を投下された戦争の悲惨さについて、これまで教育の場での指導は、福島第一原子力発電所事故を踏まえ、放射線に関する指導について今後どのように取り組まれようとしているのか。

《教育長》

我が国は、原子爆弾を投下された唯一の被爆国であり、身をもつて経験した戦争の悲惨さを教育の場で指導することには、大変重要なことと考えております。とりわけ、小学校社会科において、第二次世界大戦を調べる際には、広島・長崎への原子爆弾の投下などによって国民が大きな被害を受けたことも分かるように指導することとしております。一方、今般の原発事故を受け、児童には、放射線について正しい知識を身に付けさせることが一層必要であること認識しております。この3月に文部科学省から配付された放射線に関する副読本では、放射線から身を守るために、放射線計測器の活用など、具体的な活用状況を、10月を目途に把握することとしております。

さらに、その折には、教員が他にどのような知識や研修を必要としているかについて、現場のニーズに即した研修の充実を目指すとともに、放射線に関する指導の充実を図ってまいりたいと考えております。

【檀原・高市地域での「万葉プロジェクト」について】
 「万葉プロジェクト」の推進に「万葉プロジェクト」の今年、檀原・

高市を中心とした地域において、どのような催しなどを行うの歴史の価値をわかりやすく紹介していくための取り組みの進捗はどうか。

《観光局長》

「万葉プロジェクト」は、今後9年間にわたり推進することとしております。檀原・明日香地域を中心に、近鉄・JR、奈良交通の3社と連携して、古事記ゆかりの地を電車・バスを利用して巡る「シールラリー」や電車内自転車が持ち込めるサイクルトレイン運行事業などを実施予定でございます。

さらに、「万葉」にちなんだウォークイベントを県内12のコースで、講演会を15市町村で開催予定でございます。

《農林部長》

「愛鳥週間」全国野鳥保護のつどい」の記念式典は、例年、野鳥を含めた野生生物の保護活動において功労のある方々に対して表彰と、小学生や中学生による野生生物の保護に関する活動発表が中心となつており、檀原市内中心としており、檀原市内「万葉プロジェクト」の推進を予定しております。

「万葉プロジェクト」の推進を予定しております。

【南和地域の医療について】
 南和広域医療組合の設立以降、現在に至るまで、組合はどのように取り組まれているのか。また、今後どのような取り組みをされるのか。

【医療政策部長】
 新体制整備の中心は、本年3月に用地取得した大淀町近鉄福神駅前新設する救急病院と、野鳥や処置などに対応する急性期医療の役割を担い、医師と看護師を揃え、地域の救急を断らない体制を目指します。

を地域医療センターとして整備する。この2つの地域医療センターは、症状の比較的安定した患者さんに長期間の入院医療を提供するとともに、地域に身近な外来機能として内科、整形外科の診療を行うこととしております。

地域の人口が減少し、過疎化や高齢化も進展している中で、在宅医療やへき地医療の支援にも取り組んでいきます。また、医師・看護師確保の課題も重要で、魅力ある病院をつくり、多くの医師や看護師が集まっていきたいと考えています。

今年度、救急病院の基本設計、組合会館の工事等に既に着手し、それぞれの病院の医療機能についても具体的な検討を進めています。平成27年9月と予定しております。それを目標として、組合は事業を推進していくこととしてまいります。

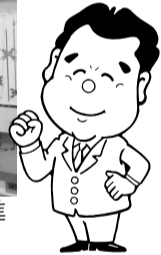
《鳥保護のつどい》

「第67回愛鳥週間」全国野鳥保護のつどい」及び関連行事である「万葉の鳥絵画コンクール」と野鳥観察会の内容は、具体的にどのようなものか。

【「第67回愛鳥週間」全国野鳥保護のつどい】
 「第67回愛鳥週間」全国野鳥保護のつどい」及び関連行事である「万葉の鳥絵画コンクール」と野鳥観察会の内容は、具体的にどのようなものか。

県議会活動

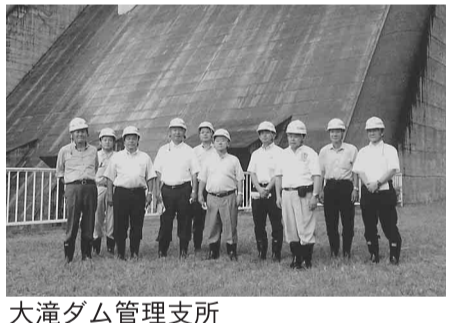
文教くらし委員会
 県外調査(10/24/26)



新潟県立教育センター キャリア教育推進ステーションの設置、キャリア教育の取組



山形県立霞城学園高等学校 特別な支援を必要とする生徒へのキャリア教育



大滝ダム管理支所



電気事業として自治体が設置する全国初のメガソーラー



新潟県立霞城学園高等学校 特別な支援を必要とする生徒へのキャリア教育



新潟県立霞城学園高等学校 特別な支援を必要とする生徒へのキャリア教育



トリスミ集成材

過疎・南部地域振興 対策特別委員会県内調査(9/3)

後援会からのお知らせ

ご挨拶

山本のぶあき後援会
 会長 花井 萃



平成二十五年度の幕が開け皆様方にはお健やかに初春をお迎えのことと存じます。平素は、山本のぶあき後援会にあたたかいご支援ご協力を賜り有難うございます。さて、昨年は、何かとご心配をおかけいたしました。後援会と致しましては、山本のぶあきの活動を常に支えていくべく活動して参りたいと思っております。

本年も引き続き、あたたかいご支援ご指導を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

後援会主催「山本のぶあきと語る会」を開催いたしました(7/7)



後援会女性部 「たちばな会」主催日帰り親睦バス旅行に行っていました 9/9 岡山方面

